

# 『平成16年度 街なか再生NPO助成金』

## 助成事業の報告

平成16年度の街なか再生NPO助成金は、一昨年の11月17日から今年の1月16日までの約2ヶ月間に募集を行い、全国24都道府県から33件の応募がありました。応募のあった全ての事業を各選考委員が確認し、下記の5件に総額200万円の助成を決定しました。その助成した事業についての結果報告です。

### ■ 平成16年度助成事業一覧

事業名	団体名	実施場所
博多川灯明(仮)	特定非営利活動法人 NPO 博多まちづくり	福岡県福岡市
屋形看板設置事業	特定非営利活動法人 芭蕉の散歩道	栃木県黒羽町
街中アート・パフォーマンス・ アメニティ実践事業	特定非営利活動法人 庄内市民活動センター	山形県鶴岡市
にぎわいのまちづくりフォーラム 開催事業	特定非営利活動法人 まちの広場	静岡県島田市
市民みんなで!「歴史& スケッチの旅」サポート事業	特定非営利活動法人 小諸町並み研究会	長野県小諸市

<b>事業名称</b>	博多川灯明（仮）事業
<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 NPO 博多まちづくり
<b>事施場所</b>	福岡県 福岡市

**事業概要:**

福岡市の都心部を流れる那珂川の支流「博多川」で、親水性を高める新しい魅力作りを行い、都心部居住者誘導、商業活性化、交流人口の増加、自治意識の向上、新しい文化の育成を図る事業である。紙袋を透かした蠟燭の明かりで博多川を幻想的に照らし出し、オブジェなどを設置してオープンギャラリー的演出とオープンカフェ的な雰囲気を作る。そこで、歩き売りやワゴン形式の売店および演奏等のイベントを行う。

**実施報告:**

平成 16 年 8 月 7 日夜に「福博七夕灯明」の一環として、博多川（博多リバレインや川端中央商店街）や那珂川（であい橋）およびその近辺において、老若男女問わず一般市民やサークル活動団体、学生、福岡市の協働で実施された。また、近接する「鏡天満宮」の夏季例大祭やアクロス福岡の開業 10 周年祭りも一体的に開催され、参観者は 5 万人を超えた。



今後は、都心部地域での共同開催となったことを年中行事として充実・定着させるとともに、地域の人々が地域内外の人と協力し地域を美しく飾ることは自治意識を高め、まちづくりを行うベースとなることから、一層の協働関係を築きたい。併せて、地域商業の活性化にもつながる特色あるものを考えたい。

事業名称	屋形看板設置事業
団体名	特定非営利活動法人 芭蕉の散歩道
事施場所	栃木県 黒羽町

**事業概要:**

黒羽町の市街地には古い蔵が点在し、城下町の面影をいまだに残している。このような町並み景観に合わせて、市街地の商店・病院・住宅の軒先にお城と蔵をイメージした屋形看板を設置することにより、黒羽町特有の町並みを演出する事業である。町が進める「シンボルゾーン整備構想」ともリンクして回遊性・賑わい・魅力の創出を図る。

**実施報告:**

黒羽町の中心部において地域の事業者と協働で40基の屋形看板を設置。住宅や飲食店、商店会の軒先で看板にそれぞれで絵や文字を書き、明かりを灯すなどして好評を得ている。



屋形看板設置は市街地の統一感を出し活性化につなげられるため、更なる屋形看板の増設を検討し、イベント開催も行いたい。

事業名称	街中アート・パフォーマンス・アメニティ実践事業
団体名	特定非営利活動法人 庄内市民活動センター
事 施 場 所	山形県 鶴岡市

**事業概要:**

鶴岡市は古くより城下町として栄えた町であり、江戸から明治初期にかけては街の中で盛大に盆踊りが行われていた。最近では、映画「たそがれ清兵衛」がヒットしたことにより、舞台である鶴岡の古き良き文化が見直されている。

この事業は明治期に途絶えた盆踊りを復活させ、中心部の商店街と連携して中心市街地の活性化に結びつけるものである。鶴岡の盆踊りである仕組み踊りを再現して、その保存会を設立する。

**実施報告:**

「鶴ヶ丘の盆踊り」について資料収集や郷土史家とともに調査した成果を9月に「歴史に見る鶴ヶ丘盆の踊りの再生を考えるフォーラム」として開催し、市民へ広く鶴岡の祭りを知ってもらった。また、同時進行で「マツカセロ踊り」「いざや巻き」の再生再現、「新庄内ハイヤ節」の音作りと振り付けを行い、2月に「鶴岡踊り祭りフェスティバル」として発表した。

これら踊りの再生再現は、歴史的意義に着眼点を置き地域の人たちの関心度を高めたことが、地域の団体、組織の方々からの認知、応援につながり、地に足のついた活動となった。

なお、完成した踊りは、今年度鶴岡市等で実施される「全国伝統芸能フェスティバル」開催時期にあわせ中心商店街で披露する。



<b>事業名称</b>	にぎわいのまちづくりフォーラム開催事業
<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 まちの広場
<b>実施場所</b>	静岡県 島田市

**事業概要:**

これまで店主が中心だったまちづくり活動に環境団体や福祉団体、市民活動団体等を加え、様々な市民ニーズに合ったユニークな発想で、まちづくりを考える事業である。

にぎわいのまちづくりフォーラムを定期的に、店主・環境団体・福祉団体・市民活動団体・市役所担当課等に呼び掛けて開催する。「どんな町にしたいか」「そのために何をすべきか」「区画整理事業をどのように進めるか」等を話し合い、一人一人がまちづくりに関心を持つように、テーマ別にワーキンググループを結成して議論し、成果を冊子にまとめる。

**実施報告:**

今年度2回のまちづくりフォーラムを開催した。開催にあたっては、まちづくりに対する市民の願望が先走ってしまうなど店主、市民の側でも意見がまとまっておらず、行政と店主、市民との共通理解が難しいことであると認識した。しかしながら、このような状態であるから危機感が生まれ、区画整理や商店街を対象にしたアンケートを実施することとなった。実施には、市をはじめTMO、商工会議所、商店街連合会やふじのくにユースカレッジなど多くの機関の協力を得られた結果、アンケート回収率は90%以上と高いものとなった。厳しい意見も多数あった一方、現状を冷静に見据えて今後に向け、意欲ある店主が沢山いることもわかった。また、チャレンジショップの提案もあり、空き店舗にフォーラムの共催団体である「環境ひろば」は事務所の開設や、TMOの(株)まちづくり島田はネットカフェを開業するなど、少しだが成果が実りつつある。

今後は、ホームページの情報量を増やし、今島田でできることをやろうとする機運を高めていきたい。



<b>事業名称</b>	市民みんなで！「歴史&スケッチの旅」サポート事業
<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 小諸町並み研究会
<b>実施場所</b>	長野県 小諸市

**事業概要:**

小諸市では、中心市街地再生のために市が進めている修景事業と合わせて、まちの魅力を再発見してもらうような散策型、ふれあい型のソフト事業が必要となっている。特に、小諸は島崎藤村や高浜虚子などの文学者や芸術家の愛した町として、美しい景観を生かした「スケッチ観光」のニーズは高いと思われる、そのニーズを具体的に調査し、その調査の中でターゲットやPRの手段を探り、どのような施設やサービスが望まれるかを探る事業である。

首都圏の創作教室、サークルを対象にスケッチ旅行のニーズを学習会形式のヒアリングとアンケートにより調査し、提供できるサービス・提供したいプログラムを検討する。検討成果のメニューを盛り込んだマップ付のパンフレット「スケッチの旅おたすけブック」を作成し配布、案内する。

**実施報告:**

スケッチ観光へのニーズ調査の実施で、具体的に望まれるサービスや施設の把握を行うのに併せ、ターゲットやPRの方法を絞り込んだ。なお、把握したデータをもとにTMO小諸に働きかけ「まちなか魅力おこし連携会議」を立ち上げてもらった。この連携会議は、市内のまちづくり団体が一堂に会することができ一定の評価を得、今後のまちづくりへの提言もまとめることができたなど波及効果が大きいものとなった。連携会議の中でも「歴史&スケッチのめぐり道マップ」編集に対し、町なかの魅力や情報、提供できるサービスを提案してもらい、作成にあたっては、町なかにさまざまな資源があることが再確認できた。また、スタンプラリーもマップに取り込み各地区での受け入れ体制を設立。2万部を印刷し、配布した。

今後の課題としては、ニーズ調査で把握した要望をどのように地元で用意できるか、連携会議などで作戦を立てたい。

